何も無い

オオハタ　ユウキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何も無い

【Ｎコード】

Ｎ４６３１Ｍ

【作者名】

オオハタ　ユウキ

【あらすじ】

何もありません。何も無いのであらすじは書けないのです。

白い空間に時折雨粒が灰色の染みを作り、その上にまた白が重なっては雨粒が染みを作る。その動作が幾度と無く繰り返されるのを、僕はただじっと眺めていた。僕の体にも雨粒は降り注ぎ、灰色の染みを作るが、それが消える事は無い。元の色が何だったのかわからないぐらいに色に汚染された僕の体は、煙草の先から灰が落ちるかのようにぱらぱらと少しずつ崩れていく。僕はそれをどうする事も出来ないという事を知っている。いや、どうもしようとしないのだ。

僕の体は浮いているのか地面に立っているのかわからない。そこには何の感触も無い。この空間に果てはあるのかそれすらもわからない。移動しようにも足はほとんど崩れかかっていた。

「そこには何も無い」

という誰かの声が聞こえた。僕が声を出したのだろうか、という考えはすぐに消え去った。首はもう殆ど原型を留めていない。それに、声が聞こえたというよりも、声が体に入ってきたというほうが正しいのかもしれない。僕の右腕が粉になってどこかへ飛んで行った。僕の両足は膝から下が既に無い。左目が見えなくなっている。多分顔の左半分は無くなっているんだろう。血は出ない。右腕の付け根を確認するが、断面図はうまく見る事ができない。真っ白になっている。

ここには何も無いのであれば、僕は一体何なのだろう。もうすぐここには何も無くなるならわかるけど、僕はまだ微かにここにいる。ここは一体何処なのだろう。わからない。わからないことを考えてもいつまで経ってもわからない。今僕自身が何を考えているのかもわからなくなってきた。さすがに脳みその半分が無くなるとわけがわからなくなるのだろうか。ではなぜ死なない？　僕はなぜ死なな

いのだろう。そうか死なないのだ。死なないから死なな――

灰色の染みが白い空間を覆い尽くすと同時に、そこには何も無くなった。はじめから何も無かったのだろうか。

その空間はまるでテレビを消した時のように、プツンと音を立てて消えた。

（後書き）

ありがとうございました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4631m/

何も無い

2010年10月8日22時19分発行